

学校教育目標	社会に生きる、社会に役立つ人になるために 生きた学力(知) 健やかな心身(徳・体) よりよい人との関わり方(公・開) を育みます。			
	学校概要	創立 150 周年 児童生徒数: 318 人	学校長 丸山 稔 主な関係校: 共進中学校・蒔田中学校	副校長 佐々木 慶子

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	共進中学校 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
問題発見・解決能力 自分づくりに関する力	共進中学校 日枝小学校 太田小学校	小中学校間で学習指導や生徒指導の円滑な接続を大切にし、 まちの子どもたちに必要な資質を育てる。 ○児童生徒及び小中職員との交流 ○共有のテーマを柱とし、授業研究の推進 ○児童生徒理解、特別支援教育を中心とする情報交換及び研修の実施

中期取組目標	○これからの社会に生き、社会とつながり、ともによりよい未来を創っていくために必要な資質・能力を育みます。 ・どの子どもも学ぶ喜びを実感する魅力的な教育課程実現のために不断の授業改善を推進します。 ・子どもが自らの夢や願いをかなえるために挑戦していく問題解決的学習を展開し、自己有能感と自尊感情を育みます。 ・変化や多様性を柔軟に受容し、失敗や挫折も希望をもって乗り越えていける健康でしなやかな心身を育みます。 ・地域の学習財を生かした学習を展開し、児童が主体的に社会と関わり、社会参画する姿勢を育みます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善 担当 重点研究推進委員会	①不断の授業改善を推進し、夢中になって学ぶ子を育てる。②授業を通して児童理解と学級経営の実践的研究を行い、問題解決を通じ児童が自己実現を図る授業を実現する。③対話的な学びと芸術教育を重視し、豊かなコミュニケーション能力と表現力を育む。④地域学習財の開発と地域の教育力の活用を図る。
徳 道徳・人権教育 担当 道徳部・人権教育部	①間違いや失敗がゆるされ挑戦的な試みが奨励される学級風土・学校風土を醸成する。②全ての活動を通じて児童の自己実現を図るようにし、自己有能感と自尊感情を育む。③全教科・領域で、多様性を大切にし、自他の生命・人権を尊重し自然を愛護する感性・感覚を育む。
体 健康教育 担当 健康・体育部	①基本的な生活習慣の定着に努めるとともに食育を推進し、積極的に保護者に発信する。②教育課程外も含めた教育活動全体で、体を動かす楽しさを味わうことができるようにし、生涯にわたって運動を行う意欲や習慣を育む。
公開 ESDの推進 担当 ESD委員会	①教科等の学習内容とSDGs17の目標とのつながりを示し、学ぶことの意味を考える機会の充実を図る。②『横浜の時間』を中心に体験的学習を取り入れ、学校・地域の問題の解決に向けて取組み、その内容を家庭・地域に発信する。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①いじめ防止・人権・傾聴研修を各年2回以上行って全職員のいじめに対する感度を高めるとともに、教育相談と生活アンケートにより細かな変化を見逃さない体制を構築する。②いじめ防止対策委員会を毎週開催し、積極的にいじめを認知し、経過を丁寧に確認して再発防止・未然防止の取組を組織的に推進する。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 教務部・メンターチーム	①全職員が、児童の生命・人権を守ることを最優先に学校運営に主体として参画して働く。②キャリアステージ2以上の全職員が人材育成の目標をもち、後進職員を指導・支援する。③演習を通じ、不祥事防止の意識を高める。④児童と向き合い授業を改善することを全職員の業務の中心とするために校務の見直しを行う。
地域学校協働事業 担当 教務部	①運営協議会と協働本部との円滑な連携を図って150周年記念事業を実施することを通じ、子どもの教育の為に地域・保護者・学校が協力できる体制を構築する。②協議内容を共有し、教職員が地域と協働して子どもを育てていく意識を高める。③コーディネーターと教員の連絡を密にし、地域の教育力を十分活用できるようにする。
特別支援教育 担当 特別支援教育委員会	①児童理解に努め、定例の職員会で個々の児童の状況を全職員で共有し、指導にあたる。②外部機関と連携しセンター機能等の活用を図りながら、きめ細かく指導を行う。③障害の社会モデルの考え方やユニバーサルデザインについての理解、児童の様々な特性に応じた効果的な支援の在り方について研修を深める。
児童指導 担当 児童指導部・特活部	①児童が自ら課題を把握し、主体的に思考・判断して行動していけるようにし、学校生活の中で児童が直面する問題を解決する中で実践的に好ましい行動や規範意識を育てていけるようにする。②「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的に児童を理解し、具体的で実効的な支援・指導を行う。
多文化共生 担当 国際教室担当	①学校を核とした多文化共生事業の学習を全学年で実施し、異なるよさを認め合う共生の取組を推進する。②みなみラウンジ等関係機関と円滑に連携して必要な児童に日本語支援をする。③日本語支援を必要とする児童や様々な文化的背景をもつ児童一人ひとりの状況を的確に把握して多面的な支援ができるようにする。